片頭痛と咬合学特論（猿田樹理）

Advanced Course of Migraine and Occlusion （Juri Saruta）

キーワード

① 慢性頭痛
② 不正咬合
③ ブラキシズム
④ 口腔顎顔面痛
⑤ 精神・心身医学

授業概要

片頭痛は、日常生活に支障をきたす疾患として知られているが、原因が多岐にわたると考えられているため、治療方法は原因療法ではなく対症療法が行われているのが現状である。本分野では、片頭痛の多くの原因の中の一つとして不正咬合との関連について研究を進めている。そこで本講義の前半では、頭痛学の基礎と臨床咬合学について講義を行う。後半では、片頭痛と顎顔面口腔領域に関する最新の研究論文を解説し、専門的な知識を修得することを目標とする。

授業科目の学修目標

頭痛は口腔顎顔面痛に関連することが知られており、特に頭痛と顎関節症、歯痛と頭痛の間には病態的関連性があることが示されている。また不正咬合は、口腔の健康だけでなく、全身の健康や疾患状態にも影響を及ぼすことが知られている。そこで本科目では不正咬合および口腔顎顔面痛と関わりのある慢性頭痛との関連性に着目し、俯瞰的な知識・態度・技能を包括的に修得することを目標とする。

授業計画

① 臨床咬合学論　5コマ　猿田樹理
② 不正咬合とブラキシズムとの関連　5コマ　猿田樹理
③ 口腔顎顔面痛の発症メカニズム　5コマ　猿田樹理
④ 慢性頭痛の発症メカニズム　5コマ　猿田樹理
⑤ 片頭痛と咬合における臨床研究のエビデンス　10コマ　猿田樹理

教科書および参考書

機能咬合のリコンストラクション　クインテッセンス出版　D.Reusch・P-G.Lenze・H.Fischer 著
慢性頭痛の診療ガイドライン2013　医学書院　監修　日本神経学会・日本頭痛学会

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

片頭痛と咬合学特論では授業項目と不正咬合に関わる口腔顎顔面領域と慢性頭痛に関連する臨床研究論文を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

① 臨床咬合学論の意義を理解し、咬合学の基本を説明できる。
② 不正咬合とブラキシズムとの関連を理解し、説明できる。
③ 口腔顎顔面痛の発症メカニズムを説明できる。
④ 慢性頭痛の発症メカニズムを説明できる。
⑤ 片頭痛と咬合における臨床研究のエビデンスを理解し、記述することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
60%	30%	0%	10%	0%	0%	0%

評価の要点

・試験は、授業計画で行った講義の知識理解度を判定する。1回60%
・小テストは、授業終了後に毎回行い、知識の理解度を判定する。30回×1%=30%
・成果発表は、最終授業終了後に片頭痛と咬合学特論で修得したことについて10分間のプレゼンテーションを行い評価する。1回10%

理想的な達成レベルの目安

片頭痛と咬合学特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。